

情報エンジニア科 学校関係者評価委員会 議事録

【出席者】

学校関係者評価委員 (敬称略 順不同)

秋山 英作	大日通信工業株式会社
大音 和豊	モノプラス株式会社
小森 望充	国立大学法人九州工業大学

学校関係者

木村 誠	学校長
松本 哲也	司会 総務ユニット班長
中本 智	就職ユニット主任 電子工学科 2年担任
上田 良和	教務ユニット班長 電気設備科 2年担任

【日時】 2021年3月25日 15時10分～16時10分

【場所】 大阪電子専門学校 3階 コワーキングスペース

【議案】 1. 委員長選出
2. 教育方針案 報告及び質疑応答
3. 自己評価結果 報告及び質疑応答

【議事録】

1. 委員長選出

委員会のみならず、情報エンジニア科プロダクトデザインコースの定例会にも参加いただいていることから、大音委員が推薦され可決された。

2. 教育方針案 報告及び議論

令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止や非常事態宣言発出が原因で、年度当初のカリキュラム通りに行うことが出来なかった。

令和3年度計画案においては、学校の方向性としてAI×ロボットに注力することを示しているが、AI関連の科目(「AIプログラミング」「AI概論」)を引き続き開講することになっている。

デザイン系の教育内容について改善に力を入れており、この成果としてプロダクトデザインコースでは、全国的なデザインコンテストにおいて受賞者が生まれた。

実習時の安全指導や、技術者リテラシー教育にも力を入れている。さらに業界の意見を伺うため、定例会や会議を行っている。

3. 自己評価結果の報告及び質疑応答

企業ニーズや世の中のトレンドの調査は難しく、調査方法は工夫したほうが良いのではないかとの意見に、就職課を通し直接お話を伺っており、学生に求める資格や技術に関しても対面でお聞きしている。世の中のトレンドの調査は定期的に会議を行い、社会トレンドの調査報告を行っていることを報告した。

学生アンケートにおける授業関連の回答から、学生の学力レベル差が激しいことが伺われ、教育が難しいのではないかとの質問に対し、2 極化の著しい科目に関してはクラスの分割も考えており、これが出来ない場合においては、上位の学生には課題を出しつつ、授業について行けない学生のフォローを行っていきたいと考えていると回答。

教員研修に関し、他校の卒業制作見学には学生だけではなく教員も参加し、本校と他校の違いを把握できていいのではないかとのアドバイスを受けた。

大学においてはシラバスに授業を受けることによる到達目標も明示されているが、専門学校ではどうなっているのかとの質問に対し、専門学校にもシラバスはあり到達目標も書かれており、本校においては特に企業ニーズを踏まえたシラバスの作製を従来より行ってきたと回答。

以上